

## Anti human HNF4 $\alpha$ 7 mouse monoclonal antibody

HNF4 $\alpha$ : Hepatocyte Nuclear Factor 4 $\alpha$ 

製品コード PP-H6939-00  
旧コード ZZH6939H

Clone No. H6939

Lot. A-1

濃度 1mg/mL

容量 100 $\mu$ L

Ig class G1

Nomenclature NR2A1

Genbank AY680696

由来 ヒトHNF4  $\alpha$  (1-16 aa) の合成ペプチドを免疫した BALB/c マウスの脾臓細胞と、マウスミエロマ細胞 (NS-1) を融合して得たハイブリドーマを、BALB/c マウスに接種して得られた腹水。

特異性 ヒト HNF4  $\alpha$  7, 8, 9 と特異的に反応する。マウスおよびラット HNF4  $\alpha$  7, 8, 9 と交差反応する。

精製法 硫酸塩析法

溶媒 生理的食塩水(防腐剤として0.1% Na<sub>3</sub>添加)

Application 使用濃度は実験にあわせて至適化が必要です。

Western Blot 可  
参考使用濃度 1  $\mu$ g/mL

非還元 Western Blot 可  
参考使用濃度 3  $\mu$ g/mL

ELISA 可  
参考使用濃度 3  $\mu$ g/mL (A450=0.75)

免疫沈降 可  
参考使用濃度 適宜調整してください

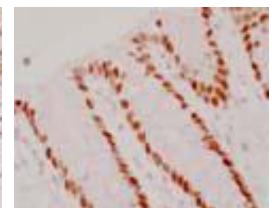
Supershift Assay 未検討  
参考使用濃度 -

クロマチン免疫沈降 未検討  
参考使用濃度 -

免疫染色 可  
参考使用濃度 10-20  $\mu$ g/mL



ヒト  
大腸  
パラフィン切片



ラット  
大腸  
パラフィン切片

保存方法 1ヶ月程度の保存の場合は、2~8°Cで保存可能です。長期保存の場合は、抗体を小分けした上で、-20°C以下での保存をお勧めします。また、凍結融解を繰り返すと、抗体が劣化し、本来の性能が得られない場合があるため、お避けください。

参考文献 Tanaka T, *et al.* J. Pathol. 208, 662-672, 2006  
Oshima T, *et al.* Pathology International: 57, 82-90, 2007

備考 溶媒に含まれるNa<sub>3</sub>は、鉛や銅と反応し爆発性化合物を形成する恐れがあります。廃棄の際には大量の水と一緒に希釈して廃棄してください。

FOR RESEARCH ONLY. NOT FOR USE IN HUMANS.

本製品は研究目的のみで使用することができます。人やそのほか動物の疾病診断、治療・予防に使用することはできません。研究目的以外で使用する場合は、あらかじめ弊社にご相談ください。

MADE IN JAPAN

Apr 24, 2008

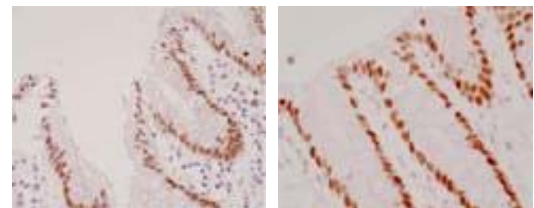
## Anti human HNF4 $\alpha$ 7 mouse monoclonal antibody

HNF4 $\alpha$ : Hepatocyte Nuclear Factor 4 $\alpha$

製品コード	PP-H6939-00
Clone No.	H6939
Lot.	A-2
濃度	1mg/mL
容量	100 $\mu$ L
Ig class	G1
Nomenclature	NR2A1
Genbank	AY680696
由来	ヒトHNF4 $\alpha$ (1-16 aa) の合成ペプチドを免疫した BALB/c マウスの脾臓細胞と、マウスミエローマ細胞 (NS-1) を融合して得たハイブリドーマを、BALB/c マウスに接種して得られた腹水。
特異性	ヒト HNF4 $\alpha$ 7, 8, 9 と特異的に反応する。マウスおよびラット HNF4 $\alpha$ 7, 8, 9 と交差反応する。
精製法	硫酸塩析法
溶媒	生理的食塩水(防腐剤として0.1% NaN <sub>3</sub> 添加)

Application 使用濃度は実験にあわせて至適化が必要です。

Western Blot	可 参考使用濃度 1 $\mu$ g/mL
非還元 Western Blot	可 参考使用濃度 3 $\mu$ g/mL
ELISA	可 参考使用濃度 3 $\mu$ g/mL (A450=0.75)
免疫沈降	可 参考使用濃度 適宜調製してください
Supershift Assay	未検討 参考使用濃度 -
クロマチン免疫沈降	未検討 参考使用濃度 -
免疫染色	可 参考使用濃度 10-20 $\mu$ g/mL



ヒト大腸パラフィン切片      ラット大腸パラフィン切片

**保存方法** 1ヶ月程度の保存の場合は、2~8°Cで保存可能です。長期保存の場合は、抗体を小分けした上で、-20°C 以下での保存をお勧めします。また、凍結融解を繰り返すと、抗体が劣化し、本来の性能が得られない場合があるため、お避けください。

**参考文献** Tanaka T, *et al.* J. Pathol. 2006; 208(5): 662-72  
 Oshima T, *et al.* Patho Int. 2007; 57(2): 82-90

**備考** 溶媒に含まれるNaN<sub>3</sub>は、鉛や銅と反応し爆発性化合物を形成する恐れがあります。廃棄の際には大量の水と一緒に希釈して廃棄してください。

FOR RESEARCH ONLY. NOT FOR USE IN HUMANS.

本製品は研究目的のみで使用することができます。人やそのほか動物の疾病診断、治療・予防に使用することはできません。研究目的以外で使用する場合は、あらかじめ弊社にご相談ください。

MADE IN JAPAN

Mar 2, 2016